

ひびぎ



No. 12

ドラム缶工業会会報

ドラム缶等の平成7年度出荷実績と平成8年度需要見通しについて

◇平成7年度出荷実績

辛うじて前年度並みをキープ

このたびドラム缶工業会の平成7年度出荷実績がまとまりました。

(表-1)に示すとおり、全缶種合計では3,865万本(32万8千トン)ですが、缶種別にみれば200L缶が1,164万本、ペール缶が2,547万本でほぼ前年度並みの実績でした。しかし、ステンレス缶は前年度を大きく割り込んでしまいました。

また、用途別には石油、化学、塗料の3大需要部門向けも前年度並みの実績に終わりました。

◇平成8年度需要見通し

大幅な伸びは期待できず1%程度の微増か

平成8年度は、缶種別にみても用途別にみても大きな変化が期待できないことから出荷本数は1%程度の微増と予測しています。

目下の政府の経済政策が実需に結びついて景気浮揚の実感が出てきたり、昨年年央以降の円安傾向が定着して輸出

向けの受注が伸びてくれば、若干の上乗せも期待できるでしょう。

◇最近のドラム缶等の出荷実績推移

小型缶は依然として苦戦が予想されるが、その他の缶種はまずまずか

上記のように、平成7年度実績や平成8年度需要見通しといった単年度の数字をみるよ

りも、ここ数年来の傾向をみる方が実態を理解しやすいと思います。(表-2)に示すとおり、全缶種合計では平成2年度以降年を追うにつれてバブル景気の崩壊が鮮明になってきて出荷実績は下降線をたどりました。平成6年度には一旦立ち直りの気配もありましたが、期待はずれに終わりその後も腰折れ状態のままに推移し、平成6-7年度は低位横這いの数字となりました。平成8年度の見通しもこの延長線上のものと考えられます。缶

種別にみれば次のとおりです。

[200L缶] および [ペール缶] は、一部には海外プラントへの生産移転や1トンコンテナなどの競合容器への切替えがあったものの、この経済環境下ではまずまずのペースで推移し全体の出荷実績を安定して支えているといえましょう。

[中小型缶] は、地球環境問題からフロンが製造中止になったり、さらし粉の輸出向けがバルク輸送への切替えや海外プラントの製造開始などの影響を大きく受けて受注の低迷が続いており、代替需要がいまだに見いだせないこともあって、引き続き苦戦を強いられそうです。

[亜鉛鉄板缶] は、平成3-4年度にフェノールの輸出物件が盛況でピークを迎えましたが、その後は平常のペースに戻りましたし、昨年来の円安傾向も今のところ追い風にはなっていないようです。

[ステンレス缶] は、平成3-5年度に水溶性塗料向けの通い容器として需要がのびましたが、それも一巡して補充缶の需要のみとなっています。

(表-1) 平成7年度缶種別・用途別出荷実績および平成8年度缶種別需要見通し

缶種	平成7年度実績								平成8年度見通し		
	トン数	用途別					本数 (単位:千本)	%	本数 (単位:千本)	%	トン数
		石油	化学	塗料	食品	その他					
200L缶	275.492	44.205	201.725	19.194	2.855	7.513	11.636	98.5	11.835	101.0	280.360
ペール缶	40.796	19.374	18.171	2.035	-	1.216	25.474	99.7	24.905	99.0	39.924
中小型缶	7.793	418	7.290	39	6	39	1.201	101.9	1.137	95.9	7.471
亜鉛鉄板缶	3.717	-	3.372	145	16	184	318	98.2	317	99.7	3.734
ステンレス缶	498	-	419	41	37	1	20	77.0	22	110.0	511
合計	328.296	63.998	230.977	21.454	2.914	8.953	38.650	94.4	38.216	98.9	332.000
前年度比 %	98.5	99.7	98.2	96.7	78.4	110.8	-	-	-	-	101.1
構成比 %	100.0	19.5	70.4	6.5	0.9	2.7	-	-	-	-	-

(表-2)

缶種別出荷実績推移

本数(単位:千本)

缶種	平成元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度 (見通し)
200L缶	11,993	12,968	12,822	12,156	11,190	11,813	11,636	11,835
ペール缶	25,735	27,003	26,953	26,622	24,805	25,538	25,474	24,905
中小型缶	2,083	2,079	1,820	1,775	1,347	1,185	1,201	1,137
亜鉛鉄板缶	207	363	579	509	340	324	318	317
ステンレス缶	19	26	34	36	36	26	20	22
合計	40,036	42,439	42,208	41,103	37,718	38,888	38,650	38,216

ICDM大津国際会議開催さる

世界21か国から約190名の参加者を得て、去る4月7日(日)のウエルカム・レセプションから始まったICDM (International Confederation of Drum Manufacturers、国際銅製ドラム製造業者連合会)の大津国際会議は、8、9、10の3日間のセッションを踏まえ、4月10日(水)の永井ICDM会長による決議および勧告採択後、翌4月11日(木)の京都オプションツアー、12日(金)の日鐵ドラム・大阪工場見学で全ての行事を予定通り滞りなく終了し、盛況裏に閉幕しました。

これは会員の皆様および関係者のご支援、ご協力の賜であり、ここに改めて心からお礼申し上げるとともに、大津会議の結果を下記の通りご報告いたします。

会議の内容

「鋼製ドラム業界の将来」をテーマとして、ICDMを構成する3地域工業会 (SEFA、SSCI、JSDA)

の代表者およびゲストスピーカーから、各セッションごとに27のテーマについて発表が行われました。発表テーマは、下記の通りです。

第1セッション：市場動向

1. ヨーロッパ、日本および米国における新鋼製ドラムの

永井ICDM会長および国際会議場風景



市場動向

SEFA：M. イエーガー氏

JSDA：山口国際委員会委員長

SSCI：ノーマント専務理事

2. ゲストスピーカー：鋼製ドラムの代表的需要家（充填業者）を代表して

SSCI：S. ヨスフサイ氏（テキサコ潤滑油社長）

3. 競合品との競争

SSCI：J. P. ヘファナン氏

SEFA：J. D. ソートン氏

4. ヨーロッパ、日本および米国における更生ドラムの市場動向

JDRA：中野英次会長

SERRED：チェスワース事務局長

ACR：ランキン事務局長

第2セッション：標準化および規則

1. 鋼製ドラムの国際標準化

ICDM：J. ウイーランド氏

2. 鋼製ドラムの「同一型式」の定義

ICDM：H. マフテン氏

3. 国際輸送規則

SEFA：H. マフテン氏

SSCI：R. D. アーウィン氏

第3セッション：新技術

1. ヨーロッパの動向

SEFA：J. ウイーランド氏

2. AE方式ドラム缶リークテスターの開発

JSDA：高橋技術委員会委員

3. 容器製造設備および製品型式

SSCI：D.J. カルカテラ氏（代理：H. アレン氏）

4. ゲストスピーカー：国際鉄鋼業界を代表して

SEFA：R. ブルテ氏

（シドマーグループ研究センター部長）

第4セッション：鋼製ドラムおよびペールのイメージアップ戦略

1. 鋼製ドラム発展のための課題

JSDA：伊地知企画委員会委員長

2. SSCI市場開発計画

SSCI：D. A. プルックス氏

3. 鋼製ドラム発展のための議論

SEFA：M. イエーガー氏

4. ゲストスピーカー：ドラム業界の課題と展望

JSDA：小島 彰氏

（通商産業省基礎産業局製鉄課長）

第5セッション：環境問題

1. ヨーロッパ環境規制

SEFA：E. スキューール氏

2. 国際環境規制

SSCI：K. H. カーシュナー氏

3. 空ドラムの定義

ICDM：H. マフテン氏

4. 鋼製ドラムの再使用、リサイクルおよび廃棄

JSDA：小野業務委員会委員

5. 米国における鋼製ドラムの再使用およびリサイクル

SSCI：G. クロフォード氏（代理：ノーマント専務理事）

6. ヨーロッパにおける空ドラムの法的地位

SEFA：E. スキューール氏

会議の勧告および決議

大津会議では上記の5セッションでの討議に基づき、1992年のフローレンス会議において採択された次の勧告および決議を更新した上で、再確認しました。

1. 技術問題

- (1) 鋼製ドラムの国際標準化の推進
- (2) ISOコンテナ用鋼製ドラム

2. 国際輸送規則問題

- (1) 容器の「型式」について明確な定義を確立すること
- (2) 表示（マーキング）位置については、地板または胴体の何れでもよいということに輸送規則を変更する努力をすること

3. 市場動向問題－鋼製ドラムのイメージを高めるために必要なあらゆる努力をすること

4. 環境、再使用およびリサイクルの推進

- (1) 環境保護－空気、水、騒音、廃棄物
- (2) 薄番手ドラム 対 厚番手鋼製ドラム
－市場の要求に応えることが鋼製ドラム業界が目指すべきことであり、また目的とすべきことであること
- (3) 取り外し可能なインナーライナー付き鋼製ドラム
- (4) 鋼製空ドラムの回収および廃棄－「空ドラム」の定義の確立

5. 鋼製ドラム業界の将来およびその戦略

- (1) 最終ユーザーと継続的に意見交換すること
- (2) 更生業界と緊密な連携を保つこと

また、今回の会議で新たに次の勧告を採択しました。

1. 代替品との競合：IBCs、プラスチックドラム等の代替品との競合については、今後も引き続きその動

向、性能をチェックし、鋼製ドラムの地位の維持・向上のため、鋼製ドラムの優位性について積極的な広報活動を行う。

2. 技術開発の推進：鋼製ドラムの品質向上および新分野の需要開拓のため、製造プロセス、検査設備および新製品の開発を積極的に推進する。

通商産業省基礎産業局小島製鉄課長には第4セッションのゲストスピーカーとして、「ドラム業界の課題と展望」と題する講演をお願いしました。内容は素材供給元である鉄鋼メーカーのリストラクチャリング、ドラム缶製造業の今後の発展のための課題、およびICDMの活動に対する期待です。課題として小島課長が挙げられたのは、①環境問題に関連するドラム缶のリサイクル、②ドラム缶をユーザーに納入する際の輸送問題、③技術開発とコストの削減、④国際標準化の4点です。紙面の都合で詳細は省略させていただきますが、日本で初めて開催された新ドラム缶の国際会議で通商産業省の製鉄課長に講演していただいた意義はきわめて大きいと思います。

なお、国際会議期間中に、ICDM国際標準化アドホックWG会議、ICDM役員会、ICDM/ICDR (International Confederation of Drum Reconditioners、ドラム更生業者国際連盟) 合同会議、AOSD正副会長会議が行われ、下記の通り合意しましたので、ご報告いたします。

オフィシャルディナーでの相川副理事長の挨拶



国際標準化の推進

鋼製ドラムの国際標準化の推進に関して、大津国際会議前日の4月6日(土)、国際標準化問題を検討するICDM国際標準化アドホックWG会議が開催されました。これは昨年11月4日、ベルギー・ブルージュで開催されたアドホックWG会議で合意したJISを含む複数規格案(日本のSタイプと欧米タイプを併記)の細部の話し合いを行ったものです。その結果、タイトヘッドおよびオープンヘッドドラムについては合意に達し、4月7日(日)に開催されたICDM役員会で承認されましたので、今後ISO規格化に向けて手続きを進めていくこととなりました。

なお、口金システムについては現状ではまだ意見の違いが大きいため、口金専門家を含むICDM国際標準化アドホックWG会議を今秋開催し、意見の調整を図った上で、同じくISOに提案していくこととなります。

次回国際会議について

4月7日(日)のICDM役員会で、次の国際会議は3年後の1999年9月にアメリカ、フロリダ州、オーランドで開催することが決定しました。

第2アドホックWGについて

昨年11月のベルギー・ブルージュでのICDM役員会の決定に基づき、第2アドホックWG会議を本年8月末～9

月始めに開催したい、との提案がICDM国連関係代表であるSEFAのマフテン氏からありました。議題は国連輸送規則関連事項の内、当面①同一型式の定義、②UN危険物容器性能試験方法、の予定です。議題によって、JSDAとして専門家を派遣することになります。

ICDM/ICDR合同会議について

4月10日(水)第3回ICDM/ICDR合同会議が開催され、同一型式、空ドラム、直接リサイクル、国際標準化等ICDM、ICDR共通の課題について討議を行いました。

また第4回ICDM/ICDR合同会議は、来年6月9～12日に米国、ワシントンで開催されるICDRの国際会議に合わせ、6月12日に開催することが確認されました。

第3回AOSD国際会議について

1994年4月にシンガポールで開催された第2回AOSD会議で、「アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会」(Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers＝略称AOSD)が発足しましたが、大津国際会議期間中の4月8日(月)にAOSD会長、副会長会議を行い、次の第3回AOSD会議は当初の予定を1年遅らせて、1998年2月中旬にインド・ボンベイで開催することで合意しました。

なおこの準備のため本年11月にボンベイでAOSD会長、副会長で構成するWG会議を開催することになりました。



- ▶大津国際会議のコーヒー・ブレイクで、隣りあったアメリカ人から突然話しかけられた。日本人のドラム缶に対するイメージ調査の2位に「風呂」という発表があったが、何故か?との質問であった。私は、しばらく考えた末、「戦後の物不足時代に、日本ではドラム缶が風呂がわりに使われたからではないか」と答えた。
- ▶軍務で、360円時代の日本に駐在した経験を持つという彼は即座に納得。確かに昔は日本は物がなく、給料を

使い切るのに苦労したよ。それに日本人は風呂好きだしと懐古談に花が咲いた。

- ▶さて、洋の東西には、「所変われば品変わる。」「So many countries, so many customs.」との諺がある。ドラム缶の仕様、使われ方も国によって微妙な差があるようである。それは各国の産業発展の歴史と文化を投影しているのかも知れない。国際標準化は時代の要請であるが、その差を十分に踏まえて進むべきだと改めて痛感した。

21世紀の需要家ニーズとの
懸け橋齋藤ドラム缶工業
株式会社

昭和7年創業以来65年間ドラム缶一筋に、18ℓ～500ℓまでお客様のニーズに応えるべくさまざまなドラム缶を提供させていただきます。

ドラム缶へのニーズも量から質へと変化しつつあり、現在その用途も石油に始まり化学へ、さらには電子機器、半導体産業等にまで幅広く発展拡大しています。

この変化に対応すべく、当社ではお客様ニーズにご満足いただける製品を提供出来るよう全社一丸となって研鑽に努めております。また特にステンレスドラムはスチール製と同様のものと、医薬品あるいはファインケミカル向けにヘラ絞り加工した底板を溶接することにより、洗浄後に残滓のないパンボトムドラム（当社の登録商標）を生産しており、その品質の高さは各方面から評価されております。

今後共より一層の研究努力と「お客様ニーズに応える」を我が社の社是として邁進してゆく所存でございます。今まで以上のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

品質とサービスで
くらしをささえる！山陽ドラム缶工業
株式会社

瀬戸大橋のある美しい町倉敷の山陽ドラム缶工業(株)は、昭和36年に水島コンビナートにドラム缶を供給するために創業いたしました。

その後広く西日本各地にお納めするとともに、研究開発を進めて特色ある新製品を送りだしてまいりました。今日では普通缶の他にステンレス缶等を生産して、ドラム缶のニーズ拡大にお応えできるようにしております。

当社はまた、独自開発による高品質の石油給湯器等燃料用タンク（30～200ℓ各種サイズ）を生産して全国の家庭や農家にお使いいただいております。

このようにして私達は厳格な品質管理とたゆまぬ技術開発により、地元を始め全国のお客様のご要望にお応えして、品質とサービスをお届けしてまいります。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0198-45-1105川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711齋藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町4-18 ☎ 03-3861-5285ダイカン株式会社
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591日鐵ドラム株式會
東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2311株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-488-3551株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.12(平成8年5月24日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。